

ACPの普及啓発にかかる ワーキング

ワーキング委員の所属団体

団体名
長崎市介護支援専門員連絡協議会
長崎市訪問看護ステーション連絡協議会
長崎市訪問介護連絡会
長崎市医師会
長崎市民生委員児童委員協議会
長崎市老人福祉施設協議会
長崎市地域包括支援センター連絡協議会

ワーキングの日時及びテーマ

1回目	令和5年8月30日（水） 19：00～20：30	A C Pの普及啓発の現状と課題の共有
2回目	令和5年9月6日（水） 19：00～20：30	A C Pの普及啓発の対応策の検討

ワーキング結果まとめ

課題	長崎市の現在の取り組み 事務局の対応策（案）	対応策（案）
① （状態により） 本人の思いの把握が困難	【対応策(案)】 ・健康なうちから、 <u>元気なうちから手帳</u> を活用したACPの普及啓発	・親を見ている世代（ケアラー）、50代以降の方たちへ<u>元気なうちから手帳</u>を見てもらうなど、広く浅く目にする機会を設ける ・施設入居申し込み時の申込書類に<u>元気なうちから手帳</u>を追加
② ACPへの抵抗感 （本人・支援者側）	【現在の取り組み】 ・ACP普及啓発（出前講座）	・<u>元気なうちから手帳</u>の第4章「これからのこと」の視点から取り組む ・ACPIについて話した後、30分くらいゆっくり話を聞く ・従事者自身が<u>元気なうちから手帳</u>を記入する ・入りやすい話題から話す ・もしばなゲームを活用する ・「ACPが最期を決めること」というマイナスなイメージを「これからの生き方を考えること」へ変えていく
③ ACPIについて扱う場やタイミング	【対応策(案)】 ・本人の思いを汲み取れるよう支援者側の研修の場 ・ACP事例やケースの共有	・担当者会議の場を活用する ・介護保険証の送付時に<u>元気なうちから手帳</u>を同封する ・認知症サポーター養成講座のように、カリキュラムを作り、講座を実施する ・還暦を迎える方へ<u>元気なうちから手帳</u>を配布する ・施設入所のタイミングでACPを実施する

ワーキング結果まとめ

課題	長崎市の現在の取り組み 事務局の対応策（案）	対応策（案）
④ 家族間でのやりとり	【現在の取り組み】 ・元気なうちから手帳を活用した家族間で話し合うことの普及啓発 【対応策(案)】 ・家族を含めたACPの実施	・誕生日などのイベント時に家族で話しをするよう勧める
⑤ ACPの普及啓発不足	【現在の取り組み】 ・出前講座（市民・専門職向け） ・民生委員全体への普及 ・看護の日イベントで啓発 【対応策(案)】 ・様々な団体への周知・普及啓発	・BCPIにACPを組み込む ・敬老の日などの場で元気なうちから手帳を配布する ・メディアによる周知 ・「もっとるばい！元気なうちから手帳」が長崎市民の共通言語となるような取り組み ・訪問看護ステーション全施設へ元気なうちから手帳を配布し、研修の際に活用する ・ケアマネ研修会で元気なうちから手帳を実際に記入する ・他都市でもACPの取り組みがあることを周知する
⑥ 知識・経験不足 （職員・互い・利用者）	【対応策(案)】 ・研修の場の提供 ・ACP事例やケースの共有	・訪問看護ステーション全施設へ元気なうちから手帳を配布し、研修の際に活用する ・ケアマネ研修会で元気なうちから手帳を実際に記入する

ワーキング結果まとめ

課題	長崎市の現在の取り組み 事務局の対応策（案）	対応策（案）
⑦ 時間・余裕がない		・ 職能団体が研修会を開催し、学ぶ機会を多く持つことで、ACPの必要性への理解を促す
⑧ 必要性を感じない	【対応策(案)】 ・ 研修の場の提供 ・ ACP事例やケースの共有	・ 他都市でもACPの取り組みがあることを周知する ・ 施設での看取り割合などを把握する
⑨ 多職種連携の方法・多職種間の役割	【対応策(案)】 ・ 研修の場の提供 ・ ACP事例やケースの共有	・ 支援者側だけで共有できる連携ノート ・ <u>安心カードや元気なうちから手帳、市医師会作成わたしの思い、市消防局作成情報提供書のツールを統一化する</u> ・ Drとの連携ツールとしてもっとコンパクトなものを作成する（保険証サイズなど）

ワーキング結果まとめ

課題	長崎市の現在の取り組み 事務局の対応策（案）	対応策（案）
⑩ 元気なうちから 手帳の配布方法	【現在の取り組み】 ・看護の日イベントで<u>元気なうちから手帳</u>を配布 【対応策(案)】 ・これまでの配布方法を継続しつつ、<u>元気なうちから手帳</u>の設置場所を増やす取り組み（薬局、医療機関、公共施設など<u>元気なうちから手帳</u>を目に触れる機会を増やす） ・様々な団体の研修会等で<u>元気なうちから手帳</u>を活用	・葬儀場に<u>元気なうちから手帳</u>を設置する ・地域センターなど市民がよく行く場所に<u>元気なうちから手帳</u>を設置する
⑪ 元気なうちから 手帳の内容の改訂		・通常の<u>元気なうちから手帳</u>と支援者側用との共有が図りやすいコンパクト版のツールを検討する

ACPの普及啓発の対応策まとめ

●「元氣なうちから」、「健康なうちから」、まずは <u>元氣なうちから手帳</u> を手にする機会・目にする機会を作る。	課題①、②、③、④、⑤、⑥、⑨、⑩
●職能団体として研修を開催するなどACPについて学ぶ機会を持ってもらう。研修の場で、実際に <u>元氣なうちから手帳</u> に記入してみる取り組みを提案。団体主催での研修実施に向けて働きかけを行う。	課題②、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨
●介護保険証の送付の際に <u>元氣なうちから手帳</u> を同封し、早い段階で <u>元氣なうちから手帳</u> を目にする機会を作る。 (これまでの「丁寧に説明してから配布」から変更)	課題②、③、④、⑤、⑥、⑩
●様々な場面、様々なタイミングで <u>元氣なうちから手帳</u> を配布する取り組み (これまでの「丁寧に説明してから配布」から変更)	課題②、③、④、⑤、⑥、⑩
●市民がよく行く場所（地域センターやふれあいセンター、老人憩いの家など）に <u>元氣なうちから手帳</u> を設置し、より多くの方へ啓発できるような取り組みに変更。 (これまでの「丁寧に説明してから配布」から変更)	課題②、③、④、⑤、⑥、⑩
●方法論、やり方を説明していく働きかけ。 <u>元氣なうちから手帳</u> に記入したあとのACPの進め方の事例、話し方の事例のノウハウをケアマネだけでなく、様々な職種が聞ける機会を作る。	課題④、⑥、⑦、⑧
●通常のサイズの <u>元氣なうちから手帳</u> と連携用のコンパクトな簡易版の2つのツールを検討。 (同時に、既存の様々なツールの統一化も検討)	課題⑨、⑪